

荻窪病院だより



退院支援を担当している医療ソーシャルワーカーと療養支援看護師・外来看護師。活発に情報交換を行っています。

早期の退院支援をすすめる2つの理由
当院では、患者さんが入院した時から退院後の生活を見据えて、早めの退院支援を行うようにしています。年平均入院日数は短くなっており、5年前の平成22年度は11日、27年度は8.9日でした。今、どの急性期病院※も長期入院はできなくなってきました

入院前の生活になるべく早く戻るように、「退院支援」を行っています

退院後、その人らしさを大切にされた療養生活にスムーズに移れるよう、様々なサポートをさせていただきますのが「退院支援チーム」。今回は療養支援看護師や医療ソーシャルワーカーによる退院支援の取り組みをお話します。

早期の退院支援をすすめる2つの理由

退院後、その人らしさを大切にされた療養生活にスムーズに移れるよう、様々なサポートをさせていただきますのが「退院支援チーム」。今回は療養支援看護師や医療ソーシャルワーカーによる退院支援の取り組みをお話します。

「ひとつは、国の施策上の理由になります。50年前は高齢者1人を1人で支えていましたが、現在は2.4人。30年後は1.2人になると想定されています。将来の日本社会の重い負担を減らすためには、医療費の削減は必須。そのための施策として、各医療機関がその役割にあつた診療を行い医療の効率化を図る“医療機関の機能分化”があります。当院はそ

「ひとつは、国の施策上の理由になります。50年前は高齢者1人を1人で支えていましたが、現在は2.4人。30年後は1.2人になると想定されています。将来の日本社会の重い負担を減らすためには、医療費の削減は必須。そのための施策として、各医療機関がその役割にあつた診療を行い医療の効率化を図る“医療機関の機能分化”があります。当院はそ

※急性期病院 重症で緊急性の高い病状の患者様の治療を行う病院。荻窪病院は急性期病院です



三菱UFJリサーチ&コンサルティング「地域包括ケア研究会」地域包括ケアシステムと地域マネジメント（地域包括ケアシステム構築に向けた制度及びサービスのあり方に関する研究事業）、平成27年度厚生労働省老人保健健康増進等事業、2016年



け入れ、命を救う役割を担っています。以前のように長く入院することは国の施策上難しく、入院が必要な治療が終了したら、早い段階で退院のお話をさせていただいています。

またもうひとつ大きな理由があります。「特に高齢の方の入院が長引くと筋肉が減少し、環境の変化から体力や気力の低下を招くことがあります。必要な治療が終了したところで、できるだけ早く元の生活の場に戻り、慣れ親しんだ暮らしの中で、気力と体力を取り戻していくことが望ましいと考えています」。適切な時期での退院は、患者さんのためでもあるのです。

介護サービスを利用してその人らしい療養生活を

病気により、入院前にはできなかった自立した生活が退院後にはできなくなる場合があります。特に一人暮らしや高齢者世帯では不安が募ります。「今までの暮らしを守るために、医療だけでなく、生活を支える介護保険をはじめとする社会保障制度を上手に利用することがこれからの社会では重要です（上図）。

荻窪病院は
地域医療に
貢献します



患者さんへ安心で信頼される医療を提供します。
職員へやり甲斐のある仕事と豊かな生活の場を提供します。

- 1.急性期医療に全力で取り組み、地域社会に貢献します。
- 2.個人の権利を尊重し、相互信頼に基づいた患者さん中心の医療を提供します。
- 3.豊かな人間性と優れた技能を有する医療人の育成に努め、活力のある病院づくりをします。
- 4.経営の健全化に努め、質の高い医療を地域に提供し続けます。

どのような治療を行っても、残念ながら治癒しない病気はあります。またやがて訪れる死は、誰であっても避けては通れない自然の摂理です。高齢で入院が必要な病気にかかり、生活に不自由さが出たり、残された時間がわずかだとしても、患者さんご自身が、どこでどのように暮らしたいかを大切に、支援していきたくと考えています」。

退院支援の実際― まず病棟看護師やソーシャル ワーカーがお話しを伺います

具体的には、退院してからの生活に変化が予想される方には、病棟看護師がこれまでの生活の様子をよく伺い、医療ソーシャルワーカーと一緒にどのような支援が必要かを考えていきます。そして医師・栄養士・理学療法士らも加わって今後の患者さんの生活をチームで支援します。

「当院では、多職種で行う『退院支援カンファレンス』を定期的に開催しています。ご本人の望む暮らし方や暮らしの場、退院後の心配ごとなどを中心に、どうすれば安心して退院後の生活を迎えられるのかを話し合っています。

また退院前には、地域での暮らし

を支えるケアマネジャーさんをはじめ、訪問看護師さんや訪問医の先生方、そしてご家族も一緒に、退院したそのときから切れ目なく支援が受けられるように『退院前カンファレンス』を開催し、安心して暮らしの場に戻れるよう努めています」。

地域連携で支える 患者さんの療養生活

このように、患者さんの生活を支えるには医療と介護の連携は不可欠です。「今年度より、杉並区内の急性期病院である当院・河北総合病院・佼成病院の3病院が世話人となり、区内の医療機関や介護支援事業所等とともに病院と地域との連携の強化を目指すための会を定期的に開催しています。平成28年12月14日に当院にて第2回の会が開催されました。いずれは地域の住民の方々にも参画いただき、会の目標



として、地域の地づくりに近づけるように努力していきたいと考えています」。

Ogikubo Hospital Topics

11月6日 荻窪病院まつり
ご来場いただき
ありがとうございました

第3回「見て！来て！楽しい♪おぎくぼ病院まつり」を11月6日(日)に当院にて開催しました。荻窪病院をもっと知っていただくというこのイベント、院内ツアーやナース&ドクターに変身コーナー、血管年齢測定や縁日など様々な企画で皆様をお迎えしました。



11月5日・6日は、桃井原っぱ公園の「すぎなみフェスタ」にも出展。100食分ご用意した杉並野菜を使用したかぼちゃグラタンの試食は、30分で終了してしまふほどのご好評をいただきました。開催日はお天気もよく両日で1500名ほどの皆さまにお越しいただきました。ご来場、ありがとうございました。

手洗い石けんが
自動ポンプ式になりました

感染管理の観点から、洗面所に設置している手洗い石けんの容器を全て自動ポンプ式に変更しました。容器に触れずに手洗いができるので、感染の機会減少につながります。インフルエンザや感染性胃腸炎が流行っています。ぜひ丁寧な手洗いをなさってくださいね。



ムース状の石けん
が出てきます

「患者さんの声」からの改善事例
シャトルバス西荻窪駅
バス停の表示を変更しました

当院ではご利用者の方から「患者さんの声」として投書ご意見を頂いており、今回シャトルバスの西荻窪駅停留所の並び位置がわかりにくいという指摘を頂きました。そこで西荻窪駅停留所内に白線を引き、並び位置をわかりやすくしました。今後も皆様からの貴重なご意見を病院の運営に活かしていきます。



西荻窪駅北口3番停留所。白線が入ったことで並んでいた場所が明確になりました

